

科学技術振興機構 平成 26 年度「科学技術コミュニケーション推進事業」採択企画

# ビッグデータは社会に何をもたらすのか ～統計学と計算科学の知見から～

## ■ 日時

平成 26 年 11 月 29 日(土) 13:10～17:00 (開場 12:40)

## ■ 会場

秋葉原 UDX 6 階 カンファレンスルーム type350 A+B

## ■ プログラム

13:10 - 13:20

開会あいさつ

田村 義保 (統計数理研究所 副所長/モデリング研究系 教授)

13:20 - 14:05

講演 1 「パーソナルデータ法制度変更」

佐藤 一郎 (国立情報学研究所アーキテクチャ科学研究系 教授)

14:05 - 14:50

講演 2 「ビッグデータ解析におけるプライバシー保護の技術」

佐久間 淳 (筑波大学システム情報工学研究科 准教授)

14:50 - 15:20

講演 3 「ビッグデータと共同規制」

生貝 直人 (東京大学情報学環 特任講師)

15:20 - 15:50 休憩

15:50 - 17:00

パネル討論

司会: 南 和宏 (統計数理研究所モデリング研究系 准教授)

## 【第1回 (11/29) コーディネーター／パネル討論 司会】

南 和宏

統計数理研究所モデリング研究系 准教授

### ■ コーディネーター略歴

1987年慶應義塾大学工学部機械工学科卒業。1989年同大学工学部機械工学科修士課程卒業。

2006年USダートマス大学コンピュータサイエンス学科博士課程終了、博士(Ph.D.)。2010年より国立情報学研究所、情報・システム研究機構の特任准教授を経て、2014年9月より統計数理研究所准教授、現在に至る。専門分野は情報セキュリティ、モバイルコンピューティング等。

## 【開会挨拶】

田村 義保

統計数理研究所 副所長／モデリング研究系 教授

### ■ 略歴

1980年 東京工業大学大学院理工学研究科博士課程修了

1981年 統計数理研究所第5研究部研究員

1997年 統計数理研究所教授

2004年 統計数理研究所副所長(兼任)

## 【講演1】

# 「パーソナルデータ法制度変更」

### ■ 講演者

佐藤 一郎

国立情報学研究所アーキテクチャ科学研究系 教授

### ■ 講演要旨

政府は来年の通常国会への提出を目指して、個人情報保護法をはじめとするパーソナルデータ関連の法律の改正作業を進めており、7月に制度改正大綱を政府決定した。

個人情報保護法の施行後、初めて改正となり、その改正背景は、ビッグデータの時代に向けて、パーソナルデータの積極的な利活用、例えば本人同意なしの販売や、目的外利用を進めたいことが背景にある。一方で、パーソナルデータはベネッセの大量個人情報漏洩事件をはじめとして社会的な問題を引き起こすとともに、個人のプライバシー意識は高まっており、パーソナルデータの保護強化を求める声もある。

この制度改正は企業の法務担当者だけでなく、IT技術者、そして個人にも大きく影響することから、本講演では、最新の動向も踏まえつつ、制度改正大綱について概説していく。

なお、統計学はパーソナルデータの利活用と保護の両面でコアとなる技術であり、法改正作業の中で統計学がどのように位置づけられてきたかについても紹介する。

### ■ 講演者略歴

1991年慶應義塾大学工学部電気工学科卒業。1996年同大学理工学研究科計算機科学専攻後期博士課程修了、博士（工学）。2001年国立情報学研究所助教授。2006年より同研究所教授総合研究大学院大学複合科学研究科情報学専攻教授（併任）。

## 【講演2】

# 「ビッグデータ解析におけるプライバシー保護の技術」

### ■ 講演者

佐久間 淳

筑波大学大学院システム情報工学研究科 准教授

### ■ 講演要旨

様々なオンラインサービスの発展とともに、個人の生活や行動にまつわる情報が収集されつつある。個人データの活用はビッグデータ利活用の中心的な課題の一つであるが、プライバシー保護上の配慮が欠かせない。個人データを用いたビッグデータ解析において、何をもってプライバシーが保護されたと考えるかはデータ解析のコンテキストに依存し、必ずしも明確ではない。講演では、ビッグデータ解析におけるプライバシー保護に必要な技術をいくつかのシナリオについて紹介する。また、筑波大学におけるプライバシー保護をテーマとした大学院教育について紹介する。

### ■ 講演者略歴

2003年3月東京工業大学大学院総合理工学研究科博士後期課程修了。博士（工学）。同年4月日本アイ・ビー・エム株式会社入社、東京基礎研究所に配属。2004年7月、東京工業大学総合理工学研究科助手、2007年4月同助教、2009年4月、筑波大学大学院システム情報工学研究科准教授、2009年10月から2012年3月、科学技術振興事業団さきがけ研究員兼任、2012年2月、国立情報学研究所客員准教授、現在に至る。機械学習と知識発見、セキュリティとプライバシーの研究に従事。

## 【講演3】

# 「ビッグデータと共同規制」

### ■ 講演者

生貝 直人

東京大学附属図書館新図書館計画推進室・大学院情報学環 特任講師

### ■ 講演要旨

ビッグデータの利活用を進めるためには、消費者のプライバシーや個人情報の保護が中心的な課題になる。しかしその詳細な要件までを法律で定めることは不可能であり、産業界や学界等を主体とした自主規制による補完的対応が行われることが不可欠となる。本講演では、自主規制と法的規制を組み合わせた「共同規制 (co-regulation)」の概念と日米欧における実例について紹介すると共に、来年に予定される個人情報保護法的大幅改正において、ビッグデータの利活用と消費者保護を両立するために、共同規制が果たすべき役割について論じる。

### ■ 講演者略歴

2005年慶應義塾大学総合政策学部卒業、2012年東京大学大学院学際情報学府博士課程修了。博士（社会情報学）。科学技術振興機構さきがけ研究員（ビッグデータ統合利活用領域）、東京藝術大学総合芸術アーカイブセンター特別研究員等を兼任。専門分野は日米欧の情報政策、文化芸術政策。著書に『情報社会と共同規制』（勁草書房）等。